

4月30日 - 5月1日のFOMCのコンセンサスって何さ？

【明確なコンセンサス】

6会合連続で政策金利**5.25%**（下限） - **5.50%**（上限） 据え置き

最近のFOMCメンバーのコメントは？

4月25日、イエレン米財務長官

「為替介入は非常にまれで例外的な状況でのみ許容される」

4月19日、グールズビー・シカゴ連銀総裁 **ハト派**

「待つのは合理的」

4月19日、ボスティック・アトランタ連銀総裁（2024年投票権を持つFOMCメンバー）

「今年は1回の利下げを予想」「年末まで利下げは出来ないだろう」

4月19日、カシュカリ・ミネアポリス連銀総裁 **タカ派**

「利下げはいくらでも待つことが可能」「利下げを2025年まで待つ可能性もある」

4月18日、ウィリアムズ・ニューヨーク連銀総裁（2024年投票権を持つFOMCメンバー）

「利下げの緊急性は感じていない」「利上げは私の基本的な予想ではない」「データが利上げを要求するなら、FRBは利上げするだろう」

4月17日、パウエルFRB議長（2024年投票権を持つFOMCメンバー）

「政策の実行にさらに時間がかかるのは適切」「確信を得るまでにはさらに時間がかかる可能性が高い」

4月17日、バーキン・リッチモンド連銀総裁（2024年投票権を持つFOMCメンバー） **タカ派**

「利下げの決定に時間をかけるのは賢明」

4月16日、デイリー・サンフランシスコ連銀総裁（2024年投票権を持つFOMCメンバー） **ハト派**

「インフレ目標達成の確信が持てるまで政策対応を控えるべき」

4月15日、ウィリアムズ・ニューヨーク連銀総裁（2024年投票権を持つFOMCメンバー）

「市場はインフレ進行の鈍化を考慮に入れている」

サプライズはパウエルFRB議長の発言？

○ 発言は17日講演と比較される

「政策の実行にさらに時間がかかるのは適切」

「確信を得るまでにはさらに時間がかかる可能性が高い」

【例えば】

- **長期化するインフレに対する警戒感を高めるような発言**
- **データ次第では利上げの可能性がある**
- **利下げに費やす発言と同程度、利上げに関する発言を行った場合**

4月日銀会合の振り返り

○ 円安 物価への影響「今のところ大きな影響なし」

Q：為替市場で円安が進んでいることによる物価への影響は？

A：「**基調的な物価上昇率に、円安が今のところ大きな影響を与えているということではない**」

○ 円安 物価への影響「リスクはゼロではない」

Q：為替市場で円安が進んでいることによる基調的な物価への影響は無視できる範囲か？

A：「**はい**」



「聞き捨てならない」との言葉が会見中に出るほどざわつく

言葉の伝わりにくさも円安急加速の原因に

【基調的な物価】 ※基調的・・・大勢としての相場や経済情勢の基本的動向

現実に観測される消費者物価の動きから、**様々な一時的要因**の影響を取り除いた、基調的なインフレ率（いわゆる「コア指標（生鮮食品除く）」、22年頃からはコアコア（生鮮食品、エネルギーを除く）も重視）

【第一の力】

輸入物価上昇の価格転嫁による物価上昇圧力 **（円安はここに影響）**

【第二の力】

景気の改善が続くもとで、賃金と物価が相互に連関しつつ高まっていくメカニズム